

兵庫県淡路島におけるオリーブ産業化事業計画書

マスタープラン

兵庫県南あわじ市賀集鍛冶屋491番地

一般社団法人淡路島オリーブ協会

1.事業の目的

「淡路島にオリーブ産業を！」

兵庫県淡路島においてイタリア原産種オリーブの栽培を普及させることにより、島内で栽培、収穫、加工、販売に亘るオリーブ関連産業を創出し、遊休農地の活用、景観の維持、雇用の創出、産業化を通じた経済の活性化に資することを目的とする。

（一般社団法人淡路島オリーブ協会定款より）

2.事業内容

1)苗木生産

淡路島の気候風土、土壤に適したオリーブで、マイルドなエクストラヴァージンオリーブオイルの生産が可能な品種を選定し、原木をイタリアから輸入、淡路島において養生をした上で植栽をする。

2)栽培

淡路島内に散在する遊休農地（耕作放棄田、遊休畑地等）を活用してオリーブ苗木を植栽し、栽培管理することにより、植栽数年後の果実収穫を見込む。

3)収穫

一般社団法人淡路島オリーブ協会の会員（オリーブの栽培農家、栽培企業等）を組織することで、人手の確保を行い収穫作業に当てる。また収穫体験等のイベントを主催することで収穫人員の補完を計画する。

4)加工

淡路島内にオリーブオイル搾油機を導入することで、収穫直後の搾油を島内で行い、新鮮な純国産エクストラヴァージンオリーブオイルを生産する。

5)販売

純国産（現在はほぼ100%輸入）のエクストラヴァージンオリーブオイルを淡路島地域ブランドで販売する。輸入品との差別化、及び淡路島の温暖な気候に合うオリーブ品種栽培による、和食にも合うマイルドなエクストラヴァージンオリーブオイルの商品開発を行い、高付加価値商品として流通を推進する。

3.構成員と事業の現状

一般社団法人淡路島オリーブ協会には、現在個人会員、法人会員で合計50会員が参画している。平成22年から始まった淡路島でのオリーブ栽培は、総栽培面積10ヘクタールに達しており（平成28年夏現在約5,000本）、すでに一部収穫期を迎え、現在も栽培面積の拡大が続いていることから、収穫量は年々急拡大することを見込んでいる。

会員は、収穫開始に伴い、搾油設備の導入を待ち望んでいる。会員共同で利用できる搾油設備を持つことで、淡路島オリーブ協会が決める統一基準の下での商品開発を行い、高付加価値商品として淡路島エクストラヴァージンオリーブオイルを生産流通、販売させる段階に来ている。

4.事業計画

1)苗木

オリーブ苗木の生産は、どのような品質と味のオリーブオイルに加工するかという点から品種を選ばなければならない。現在日本国内で調達可能なオリーブ苗木は、主に愛知県、香川県等で挿し木苗木として国内生産されたものが中心で、品種保証のないものが流通している。木の強い生命力と豊富な量の結実、及び品種の保証のためには実生苗が必要で、イタリアの大手苗木生産者に原木の生産委託を進めている。植物検疫を受けた病気の潜在しない苗木原木の調達と生産が、順調な事業展開のためには肝要である。



2)栽培

北淡路から南あわじに亘り島内全域に点在するオリーブ栽培地の栽培管理は各会員が行っており、栽培品種は、淡路島オリーブ協会が、淡路島の気候、土壌、将来の商品設計を見込んで決定した以下のイタリア原産種に限定している。

- ・フランドイオ

イタリアで広く栽培されている品種で、病虫害に強く、味の良いマイルドなオリーブオイルが取れる。

- ・レッチーノ

オリーブオイル用の品種で、味の良いオリーブオイルが取れる。

- ・ペンドリーノ

開花、花粉量が多く、受粉を媒介する品種で、オイルの含有量が多い。

- ・マウリーノ

マイルドで良質のオリーブオイルが取れる。

- ・コラティーナ

比較的刺激のあるオリーブオイルがとれ、ブレンド用として味の特長を出すのに向いている。

栽培規模については、淡路島オリーブ協会会員を中心に、拡大を計画しており、15年後（2031年）の目標を40ヘクタール（20,000本）としている。



3)収穫

オリーブは5月に花を付け、受粉（風により異品種間で自然受粉）、実をつけて夏に向けて成長し、10月に収穫期を迎える。収穫は、基本的に手積みで行い、実の選別を同時に行うことにより、上質で味の良い加工品を生み出すことが可能になる。一粒のオリーブ果実（2グラム程度）には重量比で25～30%のオイルが含まれており、良質な（酸化程度の低い）オリーブオイルの搾油には、品種ごとに分けて手積みを中心にした丁寧な収穫が必要になる。



1)加工

高品質なオリーブオイルの生産には、収穫後に短時間で搾油する必要がある。淡路島全域に広がるオリーブ栽培地からの収穫果実を、島内どこからも短時間で加工場に運搬することが必要で、島中心部になる志筑地区が理想的な搾油機の設置ロケーションとなる。当地区に機械設備のできる候補地を探し、計画を進めることになるが、搾油機そのものは国産機が存在しないことから、イタリアからの輸入による調達になる。果実収穫量の増加計画に合わせた加工能力を決めることとする。搾油はオリーブ品種ごとに分けて行い、沈殿させた後に異品種から搾ったオイルをブレンドすることで淡路島ブレンドとも言えるマイルドで淡路島食材と相性の良い味に仕上げる計画です。



2)販売

日本国内のオリーブオイル消費量はその健康効果に対する評価から年々増加しており、年間5万トンを超える消費量に達している。その内、香川県小豆島で細々と生産されている国内産オリーブオイルは年間10数トンと、市場規模からすると存在しないに等しい規模であるにも拘わらず、根強い需要があり、高付加価値販売が主流である。

淡路島は食材の豊富な土地柄であり、淡路島産オリーブオイルを使った調理等も期待される。流通販売は淡路島オリーブ協会の統一基準で生産される淡路島ブランドのエクストラヴァージンオリーブオイルを高価格帯で全国流通させる計画で、栽培者、加工業者、流通業者が共に付加価値を分配できるサプライチェーンを構築する。

主たる販路は以下を計画している。



- ・淡路島内の直売所（あわじ島まるごと食の拠点施設、ハイウェイオアシス、御食国他）
- ・淡路島内食品卸（鳴門千鳥本舗、浜田屋本店他）
- ・インターネットショップ（オリーブ協会会員が運営するサイト）
- ・淡路島内ホテル（ホテルアナガ、ホテルニューアワジ他）
- ・全国百貨店、専門店等

5.事業規模と資金

事業の規模（栽培規模、収穫量、加工量、販売額）については、添付のオリーブ収穫加工販売シミュレーションに示しましたとおり、2032年（16年後）に栽培面積40ヘクタール、20,000本を計画し、その時点での収穫量204トン、オリーブオイル搾油量19,380リットル（瓶本数換算約77,520本/250ml）、販売金額（生産者出荷価格ベース）155百万円を目指します。

今後3年間（2016年～2018年）の事業内容（事業要素）毎の投下資金は、添付の「オリーブ植栽、加工品販売17年損益試算for淡路島オリーブ協会統合」に示した通りである。

1)苗木生産

年間1,000本程度の植栽を進めており、継続的で安定した苗木原木輸入が重要である。今後3年間の原木調達コストと養生生産コストは以下の様になる。

費用項目	単価 (円)	数量 (本)	費用金額 (千円)
輸入苗木原木 (4年生)	4,000	3,000	12,000
養生費 (土、肥料、鉢、作業費、運搬費)	2,000	3,000	6,000
合計	6,000	3,000	18,000

2)栽培

遊休農地（耕作放棄田、遊休畑地等）を活用する形でオリーブ植栽を進めており、現在の栽培地（約10ヘクタール）の半分程度は農地中間管理機構（兵庫県：みどり公社）を通じた借地契約となっており、今後も栽培地確保の主流となる予定です。栽培までの流れは、①農地の探索と栽培適正判断、②借地契約と農業委員会への報告、③農地再生作業（伐採、土壌改良、整地）、④苗木の搬入と植付け作業、⑤維持管理、となり、数ヶ月を要します。苗木の植付けは、受粉効率と将来の木の成長に備えて20～25平方メートルに一本を植付けます。農地再生に要する今後3年間の費用は以下の通りです（一部再生費用不要の土地有り）。

費用項目	単価 (円/10アール)	金額 (千円/8ha)
農地再生作業	150,000	6,000

3)収穫

人手で収穫作業をすることになりますので、収穫要員が必要です。農作業の中でも楽しい作業になりますので、淡路島オリーブ協会会員の動員、シルバーセンターからの派遣人員、収穫祭等による人員の確保が有力な計画です。

収穫作業は品種毎に行い、収穫後小型パレットにて加工場へ運びます。オリーブの実には熟度という基準があり、実の表面が緑色の若い実には多量のポリフェノールが含まれ、そのオイルの健康効果は高いけれども、糖度が低く強い渋みがあり、味の点で劣ります。実の表面が黒くなり熟した実では、ポリフェノールの含有量は低くなるけれども、糖度が上り、まろやかな味のオイルを作ることができます。

費用項目	単価 (円/時給)	金額 (千円)
収穫作業員人件費	1,000	12,000

4)加工

搾油作業は搾油機を使い、洗浄した実をつぶし、ペースト状に練って、遠心分離機で油と水分、固形残渣に分け、油のみを沈殿タンクに入れて保存します。沈殿タンク内で下に沈んだ残留固形物を分離して、更に味の設計をするために異品種のオイルを配合基準に従ってブレンドし、容器に充填、密封してラベルを貼ります。搾油機の設置は2台とも賃借による建物の確保を行い設備する計画で、候補建屋を探索中です。下記費用は候補建屋の賃借条件に基づくものです。

製造設備等費用	費用（千円）
搾油機2台（中型、小型各1台）	15,000
建物（賃貸）3年間賃料	3,800
建物補修費	10,000
人件費（3人×6ヶ月）	3,600
水道光熱費	1,500
合計	33,900

商品開発費用（一般管理費）	費用（千円）
商品試作開発費	1,000
包材費	500
合計	1,500

5)販売

流通経費は基本的に商品価格のマークアップ（付加価値）によって賄われます。費用としては、販路開拓費、地域ブランド化の経費、マーケティング及び広告宣伝費、インターネットショップ企画運営費、ショップ運営費等になります。

販売費用項目	費用（千円）
販路開拓費（流通調査費、旅費、宿泊費等）	1,000
地域ブランド化経費	500
マーケティング、宣伝広告費	3,000
インターネットショップ企画運営費	600
ショップ運営費（家賃、人件費等）	4,200
合計	9,300

6.事業損益試算

添付「オリーブ植栽、加工品販売 17 年損益試算for淡路島オリーブ協会統合」の通り。

7.資金調達

事業資金の調達については、淡路島オリーブ協会会員（個人栽培農家及び栽培企業）からの資金を活用します。個別会員では負担し切れない、苗木調達生産費、農地再生費用、加工設備費、販売関係費についての支援を必要とします。